

単位数	教科担当者	使用教科書・補助教材・その他
2	木 島 克 彦 坂 本 江 未 加倉井 祐 司	数学A (数研出版)
必修 ○学校必修 必修選択 自由選択		4STEP数学I+A (数研出版) チャート式基礎からの数学I+A (数研出版)

◆学習の目標

- ・数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高める。
- ・数学の学習を通して、計画的に学習を進める能力を育成する。

◆主な学習内容・方法

- (1) 第1章 場合の数と確率 第2章 図形の性質 第3章 整数の性質
- (2) 答えを出して終わりではなく、どうしてそうなったのかという過程を重視し、実験や反例を考えながら多角的に問題を考察していく。

◆到達目標と評価の観点

- 〔標準〕 予習・復習の学習習慣の確立と課題の完全提出
教科書の例題・練習、4STEP A問題さらにセンター試験頻出の計算問題に対応できる
確実な計算力をつける。
- 〔応用〕 数学的な考え方や見方を身につけ、解答を論理的に記述していく力と早く正確な計算力を
身につけ、積極的に入試問題にチャレンジさせる。

◆評価の方法

定期考査、宿題、小テスト等の成績、及び日常の授業に対する意欲・関心等を総合的に評価する。

◆年間予定授業時間

予定時数	70 時間	1学期 (26時間)	2学期 (28時間)	3学期 (16時間)
------	-------	------------	------------	------------

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

<ul style="list-style-type: none"> ・教科書で予習する。 ・新しい単元の復習は4STEP A問題を活用し、基礎力を自宅学習でつけておく。 ・単元の内容が進んでいくに従い、4STEP B問題および発展問題に取り組む。 ・4STEP問題集は定期考査毎に範囲を指定してノート提出を課す。 ・授業の復習は4STEP 問題集および参考書(青チャート)を活用して学習の定着をはかる。 ・積極的に青チャートの問題に取り組み、様々な角度からの解法を身に付ける。

◆授業計画

学期	月	単元・教材等（単元ごとの時間数）	学習の内容	注意すべきこと
1 学 期	4	第1章 場合の数 と確率 第1節 場合の数 (10)	集合、集合の要素の個数 場合の数、順列 円順列・重複順列 組合せ、重複組合せ 事象と確率 確率の基本性質 独立な試行の確率 反復試行の確率 条件付き確率	<ul style="list-style-type: none"> ・図表示などを用いて集合の基本的な図形の性質について理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。 ・具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せや確率について理解し、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに事象を数学的に考察し処理できるようにする。
	5			
	6	第2節 確率 (16)		
	7			
2 学 期	8	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 (18)	三角形の辺の比 三角形の外心、内心、重心 チェバの定理、ネラウスの定理 三角形の辺と角 円に内接する四角形 円と直線、方べきの定理 2つの円の位置関係、作図 直線と平面 三垂線の定理 多面体	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。また、それらを空間図形に応用していく。
	9			
	10			
	11			
12				
3 学 期	1	第3章 整数の性質 (10) 第1節 約数と倍数 第2節 ユークリッドの 互除法 第3節 整数の性質 の活用 (6)	約数と倍数 最大公約数と最小公倍数 ユークリッドの互除法 1次不定方程式 n進法 分数と小数	<ul style="list-style-type: none"> ・整数の中心となる約数・倍数関係や商や余りの概念をしっかりと理解できるようにする。また、1次不定方程式が解けるよう、基本的な考え方も理解できるようにする。
	2			
	3			